

# 2023 事業年報

# わたしたちはキリストの愛と精神にもとづき 医療を通して全ての人々に仕えます

## 病院で患者さんを待つだけの医療から健康寿命延伸に貢献できる医療への転換へ

新生病院は地域密着型のコミュニティホスピタルとして、病院から地域と医療の未来を創ることを目標に病院経営を行っております。

2023年度の病院全体の病床稼働は目標145/155床（93.5%）に対し実績145.6床（93.9%）と目標を達成し、特に病棟機能として回復期を担う地域包括ケア病棟と回復期リハビリテーション病棟の稼働が良好で、いずれも96.5%を超えました。長野圏域地域医療構想では急性期病棟の縮小と療養病棟から介護施設への患者移行、回復期病棟の増床が求められており、当院では2023年度この構想に沿った実績を達成することができ、2040年に向けた病棟再編計画実現への第一歩となりました。一方、2023年度の医業収支は約3,600万円の赤字となりましたが、医業外収支を加えた経常利益は約2,550万円で、5年連続の黒字を達成しました。今後はICTを活用した業務の効率化と負担軽減を軸に医療の質の向上を目指し、適正な収支バランスが実現できるように努力していきます。

地域包括ケアシステムとは、高齢者が要介護状態になっても住み慣れた場所で自分らしい暮らしを最後までおくれるように、地域が一体となって支援体制を構築する仕組みです。新生病院では地域連携室が中心となり、地域包括支援センター、ケアマネジャーの方々や高齢者施設、周辺医療機関との連携のもと、総合診療外来、地域包括ケア病棟、在宅支援課、グループ法人パウル会が一体となって「ときどき入院ほぼ在宅」を可能とする在宅療養支援を行っています。在宅療養生活で問題となる認知機能の低下、摂食嚥下障害、ロコモ・サルコペニア・フ

レイルへの対策として、2023年度は認知症ケアチーム、摂食嚥下支援チームを設置するとともに、病棟での栄養・リハビリカンファレンスの充実、訪問リハビリによる生活に合わせたサービス提供を行いました。認知症ケアチームは8月から活動を開始し、同時に認知症ケアで先進的な取り組みを行っている医療機関への見学を実施してコミュニケーションの取り方や環境整備等の導入を進めてきました。今後はユマニチュードの技法を全ての職員が実践し、優しさを伝えるケアを行うことによって患者さんの自律を促し、退院後も楽しい在宅療養が継続できるように支援を行っていきたいと考えています。摂食・嚥下障害患者に対しては内視鏡嚥下機能検査の体制強化、摂食嚥下支援チームの定期的カンファレンス開催により、経口摂取の回復と食べる喜びの取り戻しを短期目標、栄養状態の改善と在宅復帰支援を長期目標として活動しました。今後は在宅復帰された患者さんの機能維持を目標とした栄養・摂食嚥下支援訪問診療の充実を行っていきたいと考えています。

新生病院は今後もコミュニティホスピタルとして単に「病気」を診る医療ではなく、「患者」を診て、「社会」を診て、「生活」を診て、「治し、支える医療」を行っていきます。さらに、病院で患者さんを待つだけの医療から積極的に地域社会に出て行って健康寿命延伸に貢献できる医療への転換を目指していきます。今後とも関係各位のご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



特定医療法人新生病院  
院長 石井栄三郎

## 認知症ケアの推進

### 認知症ケアチームを設置

2023年8月に認知症ケアチームを設置し、認知症ケア加算の算定を開始しました。また、認知症ケア領域において先進的な取り組みを行う医療機関への見学を実施しました。

地域包括ケア病棟では、下半期以降、平日に毎日院内デイケアを開催。全病棟対象の院内デイケアについても療養病棟を会場として2回開催しました。

### 認知症ケアの質の向上

認知症ケアの質の向上を目的とした研修に多くのスタッフが参加し、認知症ケア専門士の資格取得に取り組みました。

2023年10月には、福岡市認知症フレンドリーセンターを見学させていただきました。認知症の方がわかりやすい色や表示などを学び、コンピューターを使った拡張現実体験（AR）で認知症の方の視点を体験。何気ない床の模様も「大きな穴」に見えるなど、認知症の方々が感じている不安感や恐怖感を感じることができ、病棟でのケアや看護に活かしていきたい部分が多く見つかった見学となりました。



▲福岡市認知症フレンドリーセンター視察



## 摂食・嚥下および栄養に関する取り組みの推進

### 摂食嚥下支援チームを設置

摂食嚥下および栄養に関する取り組みとして、2023年8月に摂食嚥下支援チームを設置し、摂食嚥下機能回復体制加算の算定を開始しました。月1回の診療で病棟、在宅、施設患者に嚥下内視鏡検査を実施し、2023年度は計37件実施しました。

摂食嚥下認定看護師を中心に、外部専門医師や多職種との連携・協働による継続的な嚥下の評価から、個々の患者にあった食事スタイルの提案・実施など質の高いケアの提供につながりました。



▲各病棟で摂食嚥下リンクナースを選定し、誤嚥リスクの高い患者への指導を継続的に行える体制づくりを構築。(写真は実際の病棟ラウンドの様子)

### 講義形式カンファレンスと学習コンテンツ作成

摂食嚥下機能低下のある患者への診断プロセスを映像化し、動画コンテンツとして院内スタッフに共有。摂食嚥下領域の専門医師が解説しながら、自己学習と研鑽の機会を設けました。



### 食支援に関する多職種研修会への講師派遣

須高地域医療福祉推進協議会が主催した研修会へ認定看護師を講師として派遣。須高地域の医療機関、高齢者および障がい者施設、介護事業所の職員等が参加し、嚥下障害への理解および栄養摂取への支援を推進しました。



## 緩和ケア・症状緩和の推進

### 緩和ケア症例報告会

退院後の生活のイメージ等を共有することを目的に、長野市民病院およびパウル会との合同症例報告会をオンラインで開催。当院の在宅医療での症例をもとに意見交換を行いました。



### 関連研修等参加状況

項目	人数	内訳
第28回日本緩和医療学会学術大会	5	医師 2、看護師 2、事務職 1
2023ELNEC-コアアカデミー 看護師教育プログラム	9	看護師 6、リハ 3
長野県緩和ケアアドバンス研修会2023	2	看護師1、MSW 1
北信緩和ケアセミナー	2	医師 2
日本緩和医療学会教育セミナー	1	医師 1

## リハビリテーションの発展、ロコモ健診・フレイル予防

### 「第2期おぶせスタディ」開始

ロコモティブシンドローム（運動器症候群）やフレイル（虚弱）を予防し、健康長寿に寄与することを目的に、運動頻度や生活習慣との関係について、信州大学医学部、新生病院、小布施町役場との共同研究「おぶせスタディ」を実施しています。2023年4月に第2期を開始し、毎月第1・3土曜日に身体測定・運動機能測定のほか、第2・4土曜日にレントゲン・骨密度測定等を実施。信州大学整形外科の高橋淳教授らによる結果説明会を4カ月に1回開催しています。豊田地域医療センターへ視察も行い、2024年度以降は健診センターでフォローアップ体制を確立していきます。



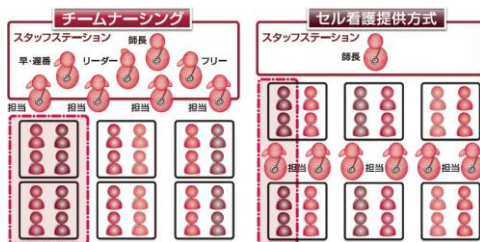
- 整形外科患者さんの診療
- 住民の健康調査(おぶせスタディ)

整形外科分野の診療を拡大し  
地域医療の充実に貢献する

2023年度 結果説明会 参加者合計 79名  
結果説明会： 8月12日 参加者 6名  
結果説明会： 12月23日 参加者10名

## セル看護提供方式®の導入

セル看護提供方式®の導入とモバイル端末導入等により業務効率化を図り、看護師の時間外勤務削減を行いました。

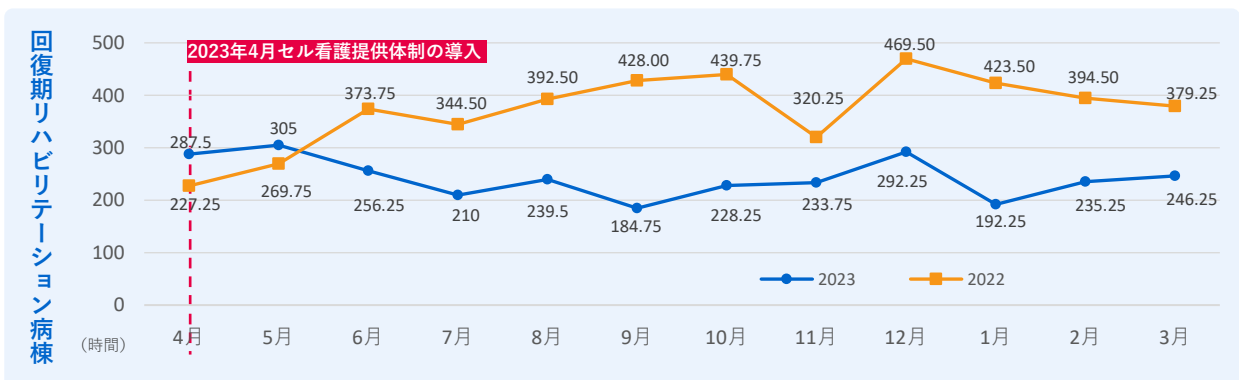
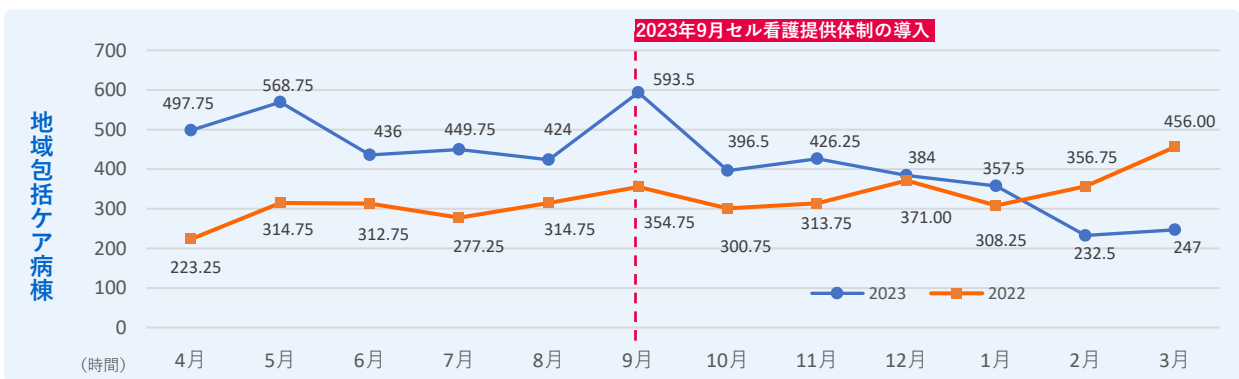


### セル看護提供方式®とは

- ▶セルの定義  
動線を最適化した、個々の看護師の担当領域をセルと称する
- ▶セル配置  
必須要件
  - ① 看護師はセル内で業務（患者対応、記録、指示受け、情報収集など）を行う
  - ② 師長を除くすべての看護師が、患者を原則均等割り振りする
  - ③ 各病室を複数の看護師が担当する（個室以外）
- 推奨要件
  - ① 重症患者を一か所に集めない
  - ② 看護師の必要とする物品が病室の周囲に配置されている
- ▶セル運用  
必須要件
  - ① 看護業務に必要なタイムスケジュールとマニュアルが整備されている
- 推奨要件
  - ① 記録様式が統一されており、漏れやムダがなく、看護師の力量を補填できる内容で、データ分析など後利用が可能である（例：看護ナビコンテンツなど）
  - ② 看護業務がカイゼン手法に基づいて管理されている
  - ③ 上記要件の中の「必須要件」を満たしていれば、『セル看護提供方式®』を実践していると表明して頂いて構いません。  
\*セル看護提供方式®は、飯塚病院の登録商標です。

株式会社麻生 飯塚病院、「セル看護提供方式®の必須要件について」、飯塚病院、2024。  
<https://aih-kangobu.com/mandatoryrequirements/>、（参照 2024-08-01）。

## 時間外勤務時間の推移



## 優しさを伝えるケア「ユマニチュード®」

ユマニチュードはフランスの体育学の専門家イヴ・ジネストとロゼット・マレスコッティが開発したケアの技法です。当院においてもユマニチュードによるケアを推進活動を進めています。



画像提供：日本ユマニチュード学会



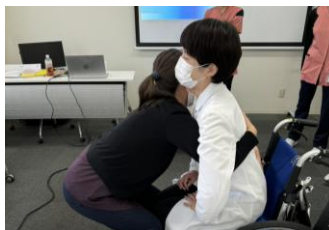
出典：YouTube (<https://www.youtube.com/watch?v=C7V03-Mhkdw>) JNN

### 2023年9月23日(土)・24日(日) 第5回日本ユマニチュード学会総会 参加

石川県で開催された日本ユマニチュード学会に認知症認定看護師等が参加し、イヴ・ジネスト氏や学術集会長講演、シンポジウムを聞き、ユマニチュードの理解と学びを深める機会となりました。

### 2023年12月11日(月) 調布東山病院 および 看護小規模多機能型居宅介護施設 ナースケアリビング 見学

ユマニチュード認証制度のブロンズ認証を取得している調布東山病院を見学し、看護師自身がユマニチュードによるケアを実際に受けながら、その方法を改めて学びました。また、認知症にやさしいデザインを内装に採用したナースケアリビングも見学し、認知症の方が安心して過ごせる環境づくりの工夫を学びました。



# 組織システムマネジメント

## スマートフォン

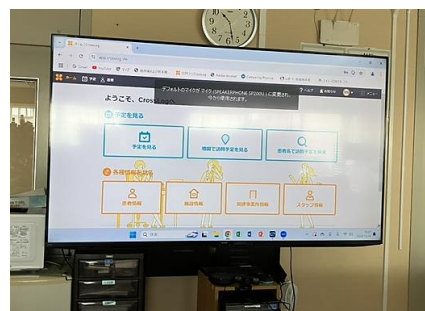
2023年6月に180台を導入（第Ⅰ期）、チャットツールとしてLINEWORKSの運用を開始。リアルタイムな患者情報共有、入院受け入れの迅速化、業務効率化につながりました。

また、院内において煩雑となっていた情報の一元化にも貢献。日々の業務の中でよりよいコミュニケーションと効果的な協力体制を促進するために、職員のプロフィール写真を撮り直しを行いました。



## 在宅医療の質の向上と訪問看護との連携強化

新型コロナウイルス感染症の影響以降、在宅医療の需要が増加しています。診療圏が広範囲にわたり移動時間が課題となる中、質の高い在宅ケアを提供するため、2024年2月にスケジュール管理アプリ「CrossLog」を導入。訪問ルート最適化や同行看護師の効率的な管理を実現しました。また、訪問看護ステーションとも連携し、タイムリーで密な協力体制を強化しました。



▲大型モニターでスケジュール共有やZOOMでの打ち合わせも行っている

## DX領域の取り組み

		2023年4月	
PBX交換工事	WiFiスポット増設		
iPhone導入（Ⅰ期：180台）		6月	
CLOMO MDM 導入	LINE WORKS運用開始	7月	公式Instagram・Facebookアカウント開設 (承認決済プロセス簡略化)
SmahrHR導入		12月	バクラク導入（電子帳簿保存法対応）
電子カルテサーバーリプレイス		2024年2月	
DHCPサーバー増強			
CrossLog 導入			
トルト 導入			
iPhone導入（Ⅱ期：150台）		4月以降	Newton's mobile 2 運用開始
スマートベッドシステム™導入			公式LINEアカウント開設
Docomo電波塔設置工事			



# 2024年の取り組み

## 口腔・栄養管理/摂食・嚥下障害治療

「口から食べることをあきらめない！」というコンセプトのもと、食べる楽しみを創出するために、摂食嚥下チームを中心とした基礎知識研修等を実施しています。

また、実践指導や動画教育コンテンツの作成・配信を全職員へ行っています。



▲ 多職種摂食嚥下チームによる回診

## 認知症ケア

認知症ケアの質の向上のため、研修および学会への参加を推進。患者の尊厳を重視した認知症ケア技法＝ユマニチュードの導入・推進にも取り組み、全職員を対象に実施した「認知症AR体験」などを行っています。

また、認知症患者にやさしい環境づくりとして、地域包括ケア病棟内の照明設置およびトイレデザインの改修を進めています。



▲トイレのドア



▲認知症AR体験

## 看護師・介護士・療法士採用強化

看護師、薬剤師、介護士などの求人募集を目的として紹介動画を制作。この動画は、当院の魅力を効果的に伝えるための重要なツールであり、引き続き、InstagramやFacebookなどのSNSを通じた広報を強化し、採用活動につなげていきます。



## 健康経営優良法人（大規模法人部門）の取得に向けた取り組み

地域を支えるコミュニティホスピタルとしての役割を果たしてしていくため、新生病院を支えている職員一人ひとりとその家族の健康づくりに積極的に取り組むことが重要なミッションの一つであると考えています。健康経営優良法人取得のため、プロジェクトメンバーを中心に研修会やイベントの開催、ホームページへの情報掲載を実施しています。



▲健康経営ホームページの開設

# 数字で見る新生病院

(2024.3.31時点)

## 病床稼働率



**93.9%**

2022年 89.9%/2021年 81.6%

地域包括ケア病棟（2階病棟）

**95.0%** 2022年 87.4%/2021年 76.7%

回復期リハビリテーション病棟（3階西病棟）

**96.6%** 2022年 93.8%/2021年 86.3%

療養病棟（3階東病棟）

**94.6%** 2022年 90.8%/2021年 84.4%

緩和ケア病棟（4階病棟）

**84.9%** 2022年 83.6%/2021年 73.0%

## 在宅患者数推移



**548**人

2022年 464人

2023年 388人

施設患者数 **237**人

2022年 215人/2021年 158人

居宅患者数 **311**人

2022年 249人/2021年 230人

在宅看取り数推移 **193**件

2022年 184件/2021年 166件

\*当該年度に在宅時医学総合管理料、施設入居時等医学総合管理料、在宅がん医療総合診療料のいずれかを1回以上算定した患者数

## 延べ外来患者数



**24,460**件

2022年 28,115件

2021年 29,648件

1日平均患者数 **100**件

2022年 115件/2021年 118件

## 訪問リハビリテーション

### 登録利用者数



**300**件

2022年 290件/2021年 290件

## 職員数

# 323人

2022年 336人/2021年 332人

常勤職員数

# 251人

2022年 264人/2021年 260人

非常勤職員数

# 72人

2022年 72人/2021年 72人

## 医師



# 12人

2022年 10人/2021年 10人

## 看護師



# 95人

2022年 98人/2021年 97人

## リハビリ職



# 70人

2022年 64人/2021年 65人

## 認定看護師

摂食・嚥下障害看護認定看護師・・・1名

認知症看護認定看護師・・・1名

緩和ケア認定看護師・・・1名

感染管理認定看護師・・・1名

## 介護福祉士



# 20人

2022年 20人/2021年 21人

技術職（リハビリ以外） 27人

事務職・その他 27人

## 働く環境

常勤

離職者数 46人 平均勤続年数6.6年  
2022年 28人

非常勤

18人 平均勤続年数4.6年  
2022年 11人

育休取得者 11人

産休取得者 11人



〒381-0295 長野県上高井郡小布施町851番地  
TEL 026-247-2033 FAX.026-247-4727